

秋田大学

平成28年度地(知)の拠点整備事業統一アンケート  
集計結果報告 教員・職員・自治体編

COC事務局

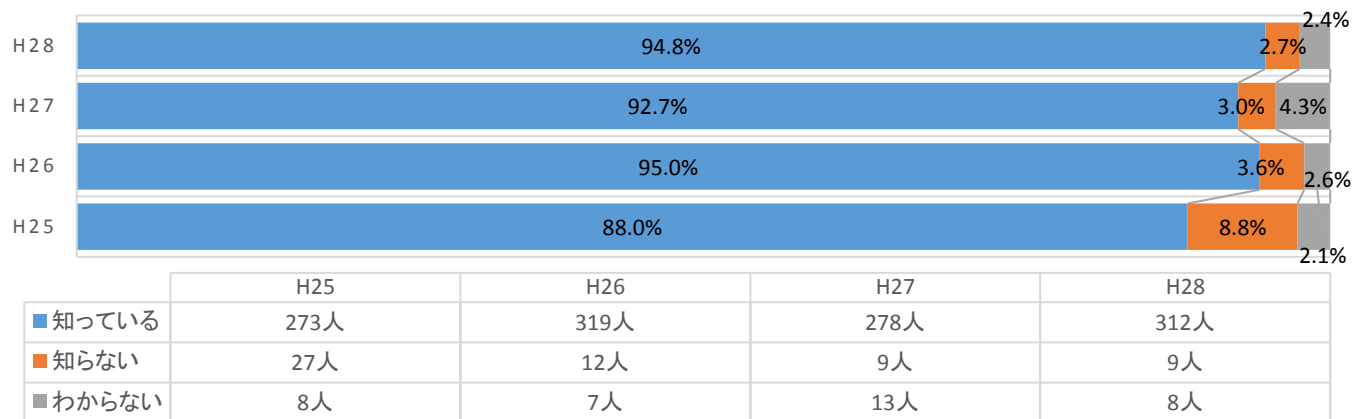
\* 実施年月 平成 29 年 3 月

\* 実施対象等

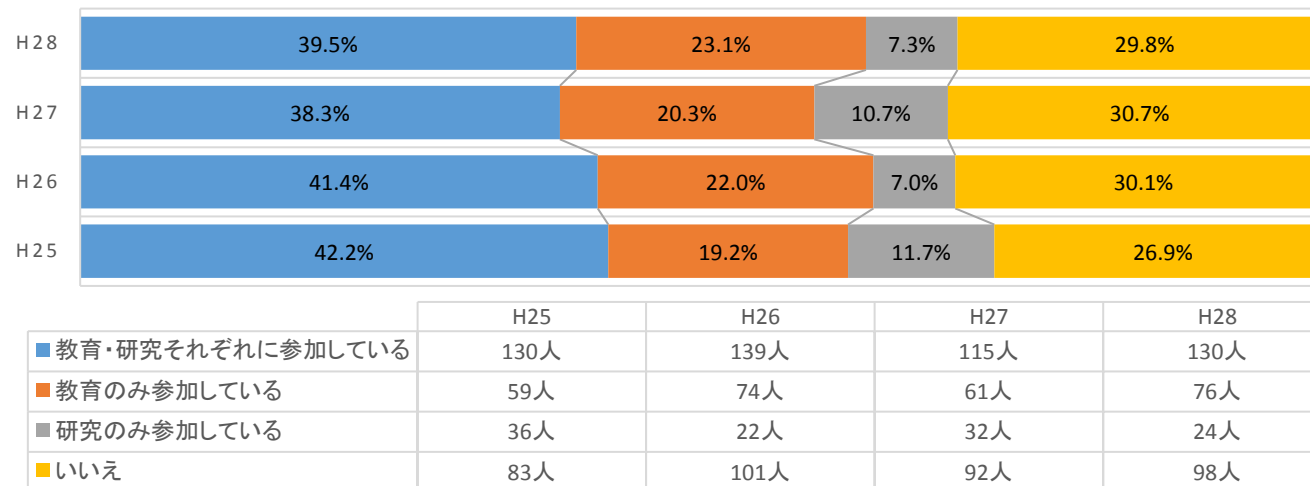
実施対象	対象数	回答数	回収率				
			H28 年度	H27 年度	H26 年度	H25 年度	比較
教 員	572 名	329 名	57.5%	52.0%	69.5%	63.1%	↗
職 員	394 名	332 名	84.3%	76.9%	90.1%	85.2%	↗
自治体	14 名 (4 自治体)	14 名	100.0%	94.7%	100.0%	95.6%	↗

# 教員

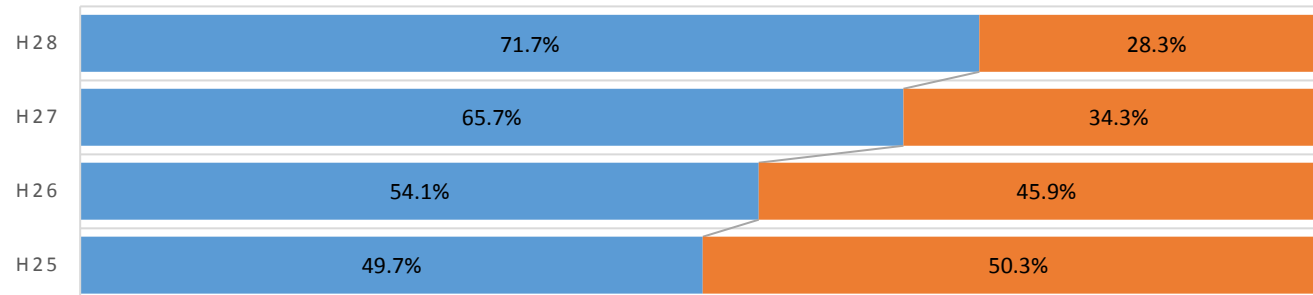
1. 秋田大学が、「地域のための大学」として地域に関する教育・研究・社会貢献活動を推進していることを知っていますか。



2. 「地域のための大学」の教員として、地域を志向した教育・研究に参加していますか。

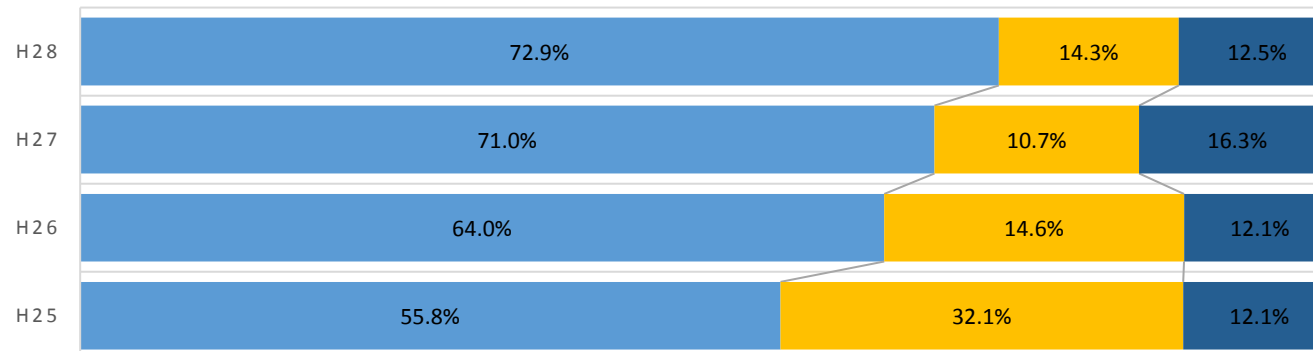


3. 平成25年度文部科学省の新規重点事業「地(知)の拠点整備事業」に秋田大学が選定されたことを知っていますか。



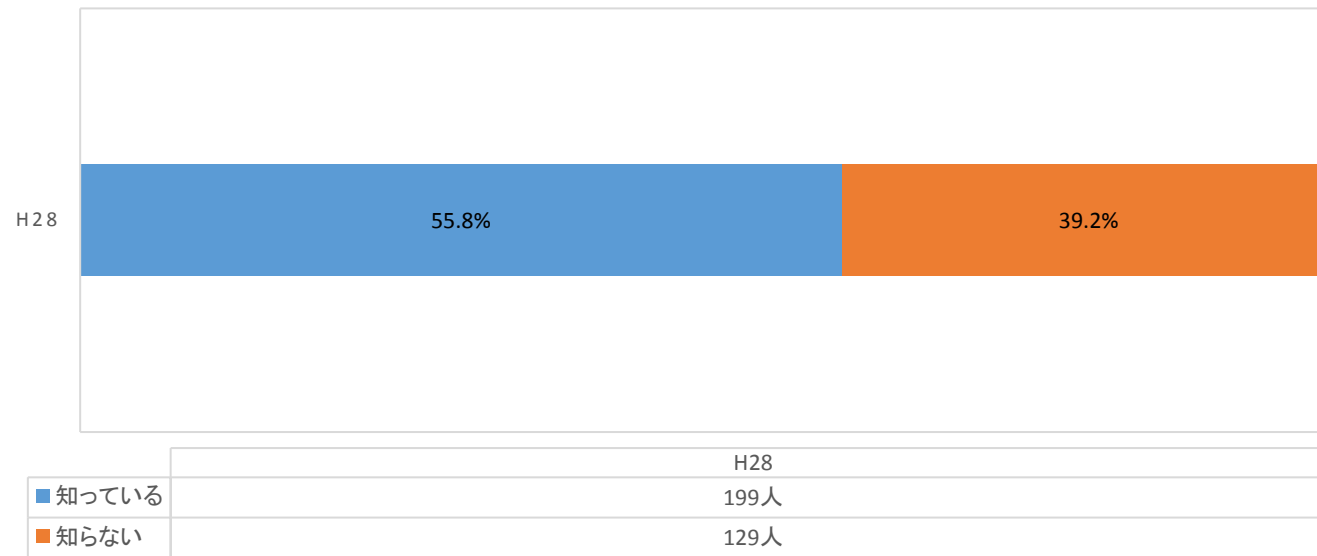
	H25	H26	H27	H28
■ 知っている	153人	183人	197人	236人
■ 知らない	155人	155人	103人	93人

4. 秋田大学が、横手市、北秋田市及び男鹿市に分校を設置していることを知っていますか。



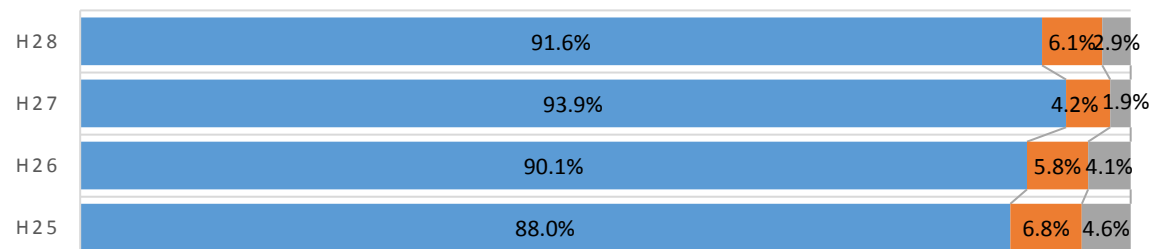
	H25	H26	H27	H28
■ 3市すべてに設置していることを知っている	193人	228人	213人	240人
■ 一部の市に設置していることを知っている	111人	85人	51人	47人
■ 知らない	42人	43人	49人	41人

5. COC+採択を受け、地方創生の中心となる「ひと」の地方への集積に取り組んでいることを知っていますか。



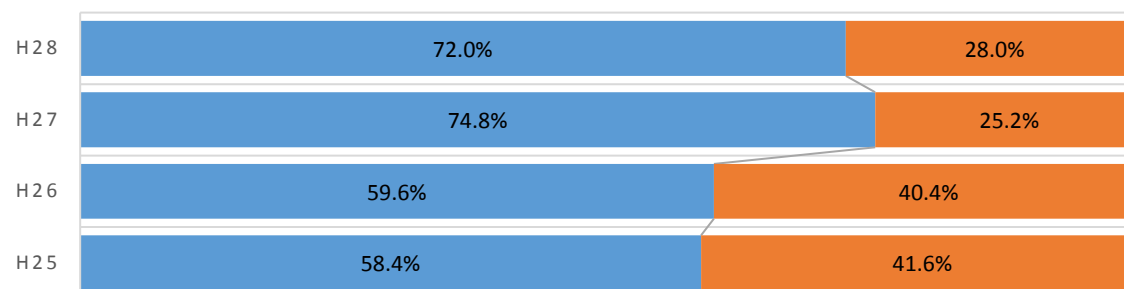
# 職員

1. 秋田大学が、「地域のための大学」として地域に関する教育・研究・社会貢献活動を推進していることを知っていますか。



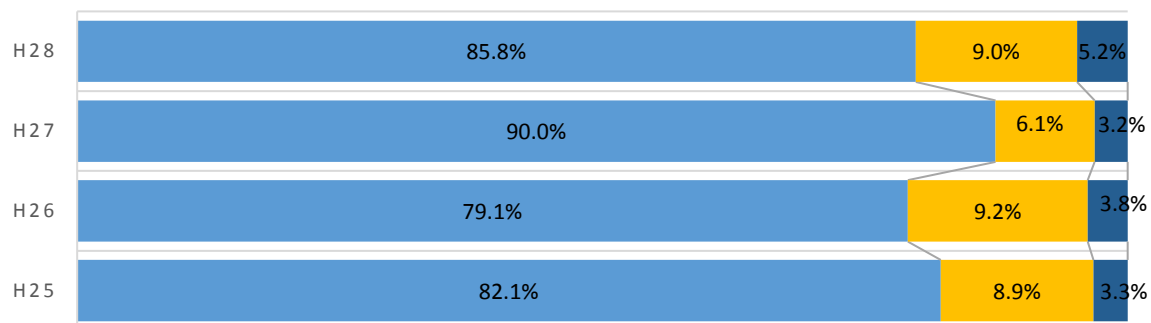
	H25	H26	H27	H28
■ 知っている	286人	311人	290人	304人
■ 知らない	22人	20人	13人	19人
■ わからない	15人	14人	6人	9人

2. 平成25年度文部科学省の新規重点事業「地(知)の拠点整備事業」に秋田大学が選定されたことを知っていますか。



	H25	H26	H27	H28
■ 知っている	188人	205人	231人	239人
■ 知らない	134人	139人	78人	93人

3. 秋田大学が、横手市、北秋田市及び男鹿市に分校を設置していることを知っていますか。



	H25	H26	H27	H28
■ 3市すべてに設置していることを知っている	277人	291人	278人	265人
■ 一部の市に設置していることを知っている	49人	63人	30人	51人
■ 知らない	11人	14人	10人	16人

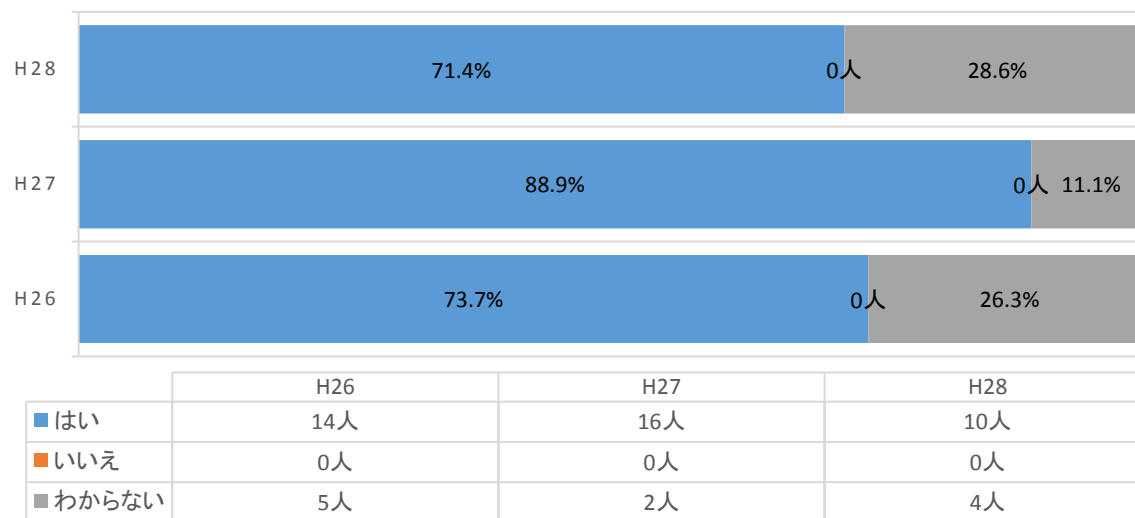
4. COC+採択を受け、地方創生の中心となる「ひと」の地方への集積に取り組んでいることを知っていますか。



	H28
■ 知っている	159人
■ 知らない	173人

## 自治体

1. 秋田大学の取組は、副申した事業計画どおりに進捗していると思いますか。



### 【はい】

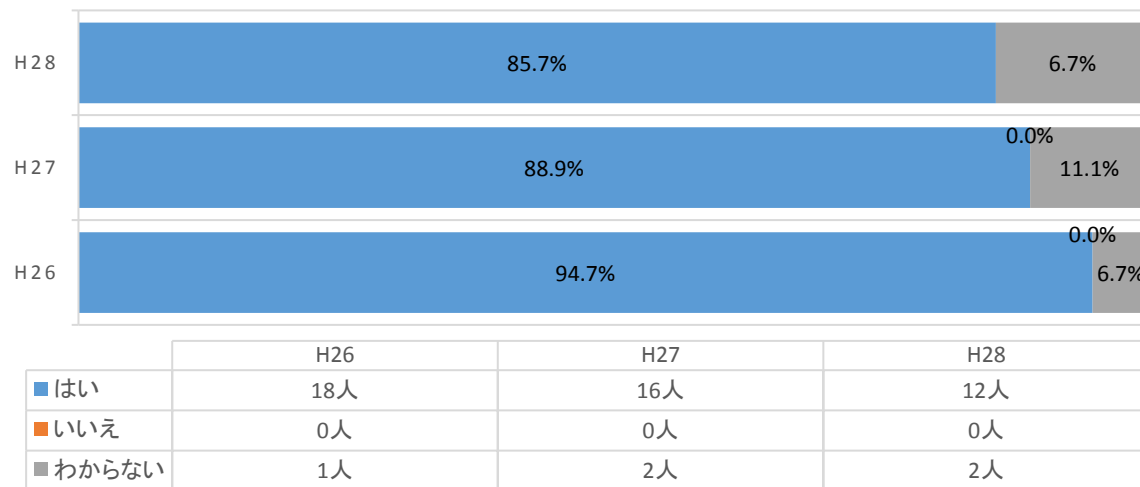
- ・地域包括ケアに関する住民理解の促進と、在宅看護モデルに関する研究の進展が図られた。 / ・各計画ごとに実績がある。
- ・概要報告において計画した事業はほとんど実施済。 / ・一部に遅れが見られるものの概ね順調に進捗している。
- ・特に小学生を対象に実施した防災教育の実施、参集範囲を拡大した市民防災研修会の開催の結果、防災意識の向上が図られたと感じる。
- ・積雪期防災計画策定のための様相が把握できたから。 / ・年度当初、大学側と事業計画の確認を行いながら打合せしている。
- ・事業計画で示されている事項は、遅滞することなく進んでいるため。

### 【わからない】

- ・自治会からの評価も確認したい。
- ・事業活動の実績を詳細に知る機会や手段がない。
- ・豊川コミュニティセンターを活用しての活動や社会貢献については地元の住民を巻き込み活発に行われていると思います。一方でその着地点となるふるさとミュージアム構想の完成のために煮詰めていかなければいけない点が多く残されているので、連携を密に行っていきたいです。



2. 秋田大学の取組について、円滑な連携のもとに実施されていると思いますか。



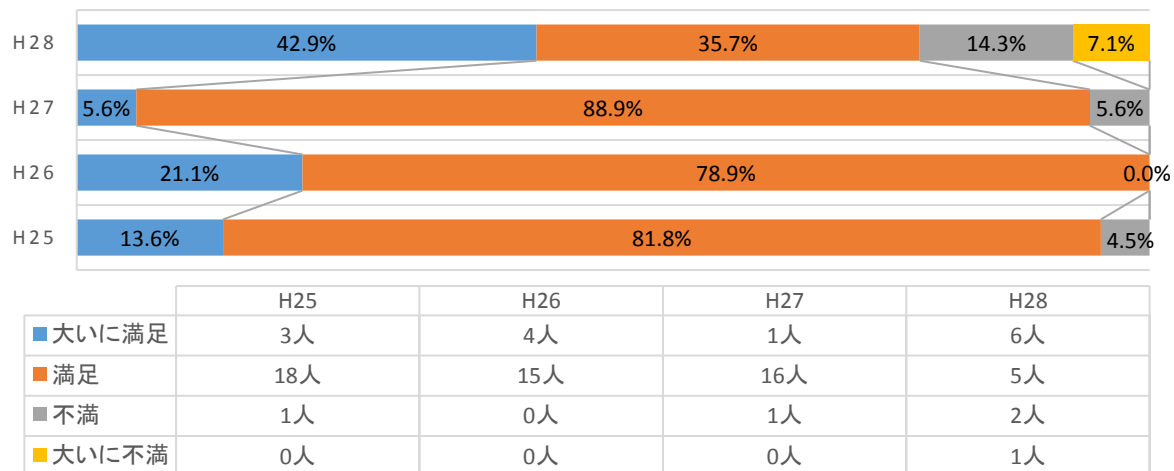
【はい】

- ・地域包括ケアそれ自体が多様な関係者の連携を必須とするものであり、地域の中で一定の役割を果たしていると考えられている。
- ・各市の課題に着目し、連携して行われている。 / ・地域のニーズに対応しているものと考えられるため。
- ・各地域で研究を行い、その結果を講演会や報告会等により還元している。
- ・円滑な連携のもとに発表会を行い、多くの地域住民を集め、COCの趣旨に沿った活動となったように思います。
- ・大学事務局と円滑な連絡調整のもと事業が進められたこと。防災研修時には学生の研究発表が行われたこと。
- ・定期的な意見交換の場があるから。 / ・担当者間で事前打合せを行いながら、事業展開している。
- ・年1回の意見交換等を行い、大学および自治体間での課題等について情報共有できている。・三者協議の実施等により、連携の推進は図られているため。

【わからない】

- ・教職員と学生の取組が多く、地域の各主体との連携が少ないように感じられるが、当初の見込みどおりなのか不明なため。
- ・連携の実態を詳細に知る機会や手段がない。

### 3. 当該大学の取組は「地域のための大学」として満足するものですか。



#### 【大いに満足】

- ・大学の活動が地域住民があらためて地域のことを考えるきっかけになっているように思います。
- ・大学教授、学生の研究テーマ等市単独実施できない取組が行われており満足している。平成 29 年度は事業の最終年度であることからより一層の成果を期待している。
- ・地域の安全・安心のためには、なくてはならない取組だから。 / ・研究の成果を地域に還元しているため。
- ・地域イベントにも大いに参画していただき、地域独自のネタを活用した活性化策の取組みを行っている。

#### 【満足】

- ・在宅医療に関する啓発とともに従事者の育成が図られるなど、地域貢献として確立されている。
- ・出前講義の回数が多いことは評価できる。
- ・地域の一人ひとりを大切に、自立した高齢社会に向けた地域づくりに役立つ取組をしている。願わくは学生（とりわけ他県から進学した学生）の地元定着一層力を注いでいただきたい。
- ・山内地域においては、地域住民に訪問看護の認知度と必要性が浸透してきた。

#### 【不満】

- ・社会貢献活動の取組が不足している。
- ・学生の実習のためだけで終わってしまわないか不安がある。

#### 【大いに不満】

- ・県民や地域住民、自治体からの意見をより丁寧に聴取してもらいたい。